

大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価(案) に関する意見交換会の概要及びアンケート結果

食品に関するリスクコミュニケーション(大阪)の概要

1. 開催日時:平成18年2月28日(火)14:00~17:05
2. 開催場所:大阪YMCA国際文化センター(大阪市西区土佐堀1-5-6)
3. 主催:食品安全委員会
4. 参加者:126名(消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等)
 - <コーディネーター> 野村一正 時事通信社解説委員
 - <パネリスト> 池上幸江 新開発食品専門調査会専門委員
 大津恵子 全大阪消費者団体連絡会事務局次長
 戸田登志也 (財)日本健康・栄養食品協会大豆イソフラボン加工食品作業部会委員
 堤原啓治 (財)食品産業センター技術開発部次長
 - <司会進行> 西郷正道 食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官
 - <食品安全委員会> 寺尾委員長代理
 - <関係行政機関> 柘寿珠 厚生労働省医薬食品局食品安全部新開発食品保健対策室衛生専門官
 古畑徹 農林水産省消費・安全局消費・安全政策課課長補佐

5. 議事の概要

- (1)冒頭、寺尾委員長代理より開会挨拶。
- (2)続いて池上新開発食品専門調査会専門委員より、「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価(案)について」と題して講演。
- (3)休憩の後、パネルディスカッション及び会場参加者との意見交換(約110分)。

主な議論は以下のとおり。

「大豆イソフラボンアグリコンの安全な一日摂取目安の上限値」という表現がひとり歩きして、特保に限ったものとは消費者は理解しにくい。特保に限らず、大豆由来食品の摂取にブレーキがかかり、日本の伝統的な食文化を揺るがすことになるのではないか。一般食品で食事をしている人は問題ないと明言する、大豆の一次機能に注目した正しい理解ができる等、評価書の表現を考慮すべきである。

サプリメントのみに頼ることは好ましくない。一方、大豆食品に偏って食事をする人に対しては、バランスのよい食事を勧めたい。サプリメントと食品は違うことを一般の人に理解してもらい、企業も食生活を曲げるようなサプリメントを作って欲しくないと個人的に考える。評価書の表現については、科学的に正しい表現を心がけると、このような評価書になってしまう。これをベースに、一般の方にわかりやすいものを作るべきではないかと、専門調査会でも意見が出ている。さらに検討したい。

リスク管理機関としても、大豆食品そのものを問題にしているのではないことを、誤解が生じないように、Q & Aを出すなどして対応しており、今後とも情報提供に努めたい。

・評価のために、タンパク質源(主菜)として摂取している日本人のデータを国レベルで試験すべきである。

・評価に用いたイタリア人におけるデータ(論文)は、大豆を常食にしていない国のデータである上、国際的に評価されていない論文ではないか。報告された「子宮内膜増殖症」は健康被害といえるのか。

日本人と欧米人とで、大豆に関して代謝上の違いがあるのではないかという指摘はある。しかし、学問的に、肉食の人と日本人とが異なるとはいえない。いずれにしても今後さらに調査をすすめるべきであると評価書にはまとめている。今回用いているイタリアの論文は、いくつかの国で健康評価のデータとして採用されている。内分泌攪乱物質の動物実験では、子宮内膜の肥厚が指標になっているので、生体影響の出てくる起点ととらえている。

上限値の設定で使用した、国民栄養調査に基づく摂取量の「95パーセンタイル値」よりも多く摂取している人でも、実際に健康被害を起こしているわけではない。上限値70～75mgはかなり安全を見込んだ数値ではないか。上乘せ上限値も一律に30mgと決定するのは問題ではないか。このような基準値は国民を不安に陥れる。

サプリメントには「注意喚起表示」が必要であるが、例えば、豆乳にしても、特保には注意喚起表示があり、特保をとっていない豆乳には注意喚起表示がないということでは、消費者の誤解を生む。

評価の段階であり、注意喚起表示等については、その後必要な措置をとる。

イソフラボンアグリコンとそれ以外のもの(大豆イソフラボン配糖体)との整合性はとられているのか。配糖体で50mgと表示されていると、消費者は「1日1個も食べられない」と誤解するのではないか。アグリコン換算で表示するようにという取り決めが必要ではないか。

論文比較のために、アグリコン換算をしている。特保もアグリコンに換算して評価した。個々の企業の表示を規制するものではないが、換算値0.625を用いれば、簡単にできる。表示の取り決めについては、管理官庁の対応である。

大豆イソフラボンが悪いというイメージが報道によって消費者に広がっている。消費者に正しい理解を持ってもらえるよう、配慮してほしい。

まさにリスクコミュニケーションであり、国だけでなく、消費者や報道、事業者、自治体が一緒になって取り組むべき問題である。

(4)閉会

食品に関するリスクコミュニケーション(東京)の概要

1. 開催日時:平成18年3月2日(木) 14:30~17:30
2. 開催場所:星陵会館(千代田区永田町2-16-2)
3. 主催:食品安全委員会
4. 参加者:147名(消費者、食品関連事業者、自治体関係者、報道等)
 - <導入> 上野川修一 新開発食品専門調査会座長
 - <コーディネーター> 中村靖彦 食品安全委員会委員
 - <パネリスト> 山添康 新開発食品専門調査会専門委員
蓮尾隆子 家庭栄養研究会副会長
有井雅幸 (財)日本健康・栄養食品協会大豆イソフラボン加工食品作業部会委員
花澤達夫 (財)食品産業センター専務理事
 - <司会進行> 西郷正道 食品安全委員会事務局リスクコミュニケーション官
 - <食品安全委員会> 寺田委員長、寺尾委員長代理、小泉委員、見上委員、本間委員、坂本委員、近藤リスクコミュニケーション専門調査会専門委員、高橋リスクコミュニケーション専門調査会専門委員ほか
 - <関係行政機関> 柗寿珠 厚生労働省医薬食品局食品安全部新開発食品保健対策室衛生専門官
古畑徹 農林水産省消費・安全局消費・安全政策課課長補佐

5. 議事の概要

- (1)冒頭、寺田委員長より開会挨拶。
- (2)続いて上野川新開発食品専門調査会座長より、導入として、今回の食品健康影響評価の経緯等を説明。
- (3)山添新開発食品専門調査会専門委員より、「大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価(案)について」と題して講演。
- (4)休憩の後、パネルディスカッション及び会場参加者との意見交換(約110分)。

主な議論は以下のとおり。

「大豆イソフラボンアグリコンの安全な一日摂取目安量の上限值」という表現は、特保に限ったものと解釈されにくい。「上限値」という表現も含めて、数値を明確に決める必要はないのではないか。また、通常の食生活では問題ないと、わかりやすく説明をするべきである。一般の大豆食品を子供、妊娠可能な女性などが食べなくなることが危惧される。

大豆食品として摂取したものは、肝臓で大部分解毒すると考えられるので、心配はない。食事で大豆食品をとることは推奨されるべきである。一方、イソフラボンを濃縮した形で上乘せして摂取することは、肝臓の処理能力を超えてしまう可能性があるため、今回、安全性を評価した。子供や妊婦には勧められない。また、「75mg」という上限値は、それを超えるとすぐに有害事象がでると言うことではない。しかし、「安全な」という表現ははずせないとする。

リスク管理機関としても、大豆食品そのものを問題にしているのではないことを、誤解が生じないように、Q&Aを出すなどして対応しており、今後とも情報提供に努めたい。

評価には、イタリア人における試験データを用いているが、食文化も違うことから、日本人のデータを用いて評価すべきである。人種差はどのように考えればいいのか。また、このイタリアの論文は、本当に健康被害の発現といえるのか、試料の影響はどうかなど疑問である。

日本人のデータで評価するのが適切だろうが、現時点で十分なデータがない。イタリアの論文も完全無欠なものではないが、5年間という長期にわたるデータであり、他国でも議論に用いられているものである。代謝など、日本人とほぼ同様の内容が得られると考え、評価に採用している。人種差よりもむしろ個人の腸内細菌叢の違いが大きいのと考える。論文で用いられている試料については、農薬等複合的な要素の影響もないとはいえないだろうが、現状では検証はできない。今後さらなる追試等ができることも期待したい。

上限値の設定で使用した「95パーセンタイル」には科学的根拠がないのではないかと。先に「上限値」ありきで引いた値のようにみえる。むしろ日本人の食経験からも97.5パーセンタイル値を採用すべきではないか。

95パーセンタイル値は、他の事象と一致しており、男女の値もそろっていることから採用したもので、95パーセンタイル値ありきということではない。95パーセンタイル値に関して、多数の意見があることは、今後審議の参考にしたい。

男性について、摂取量の目安を設ける意味はあるのか。

男性に関しては、長期間ある大きさの集団での、ヒトにおける試験がないが、動物実験では、雄に腎障害が報告されている。男性においても生殖機能に影響が生じる可能性を否定できないので、安全性を見込み、女性と同じ基準を適用した。

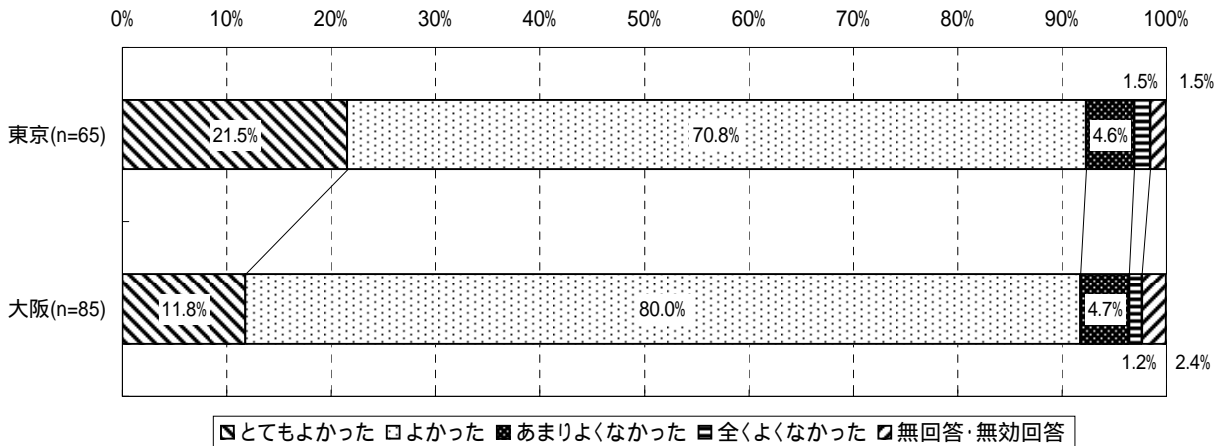
専門調査会の議事録等は早くホームページに掲載して欲しい。また、今後のスケジュールが知りたい。

議事録に関しては、掲載までに、平均3週間を頂いている。できるだけ早く対応したい。また、この大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の評価については、再度意見・情報の募集を行う（平成18年3月9日から4月5日まで実施中）。この意見交換会で出た意見も含め、その結果を検討し、厚生労働省に通知することとなる。

(5) 寺尾委員長代理より閉会挨拶。

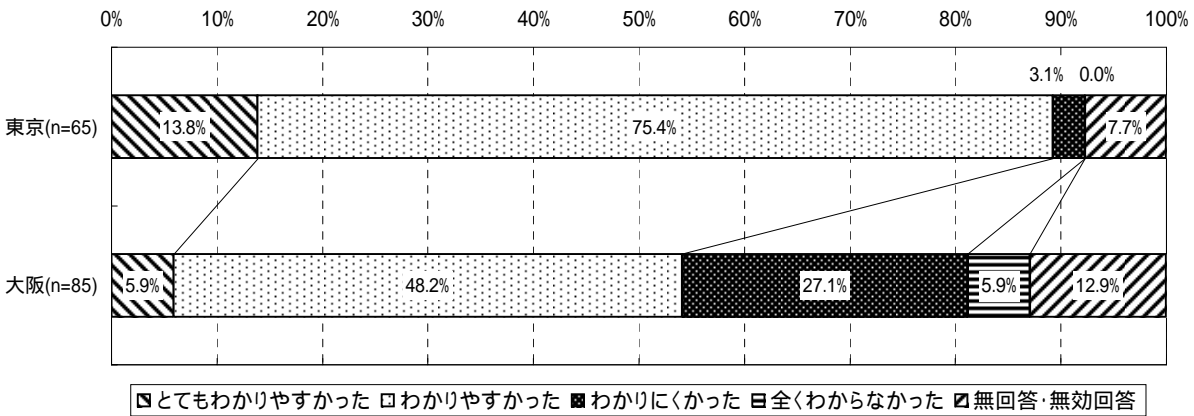
大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価（案）に関する 意見交換会アンケート結果（グラフ）

【参加手続き】参加手続きの方法はよかったですか



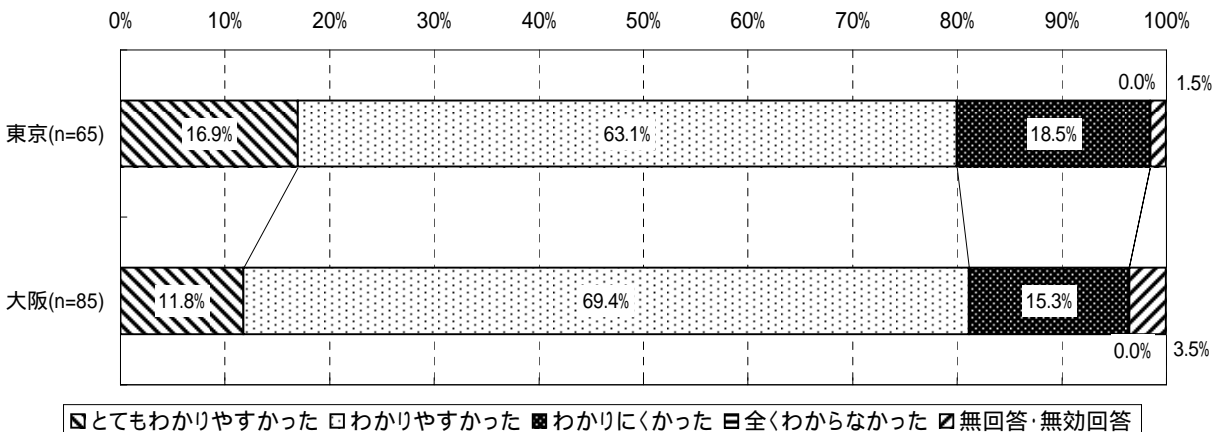
アンケート回答者のうち両会場とも90%以上が「よかったです」と回答。

【意見交換会の進め方】本日の意見交換会の進め方に関する司会者からの説明はわかりやすかったですか（開催趣旨、時間配分、意見交換の方法など）



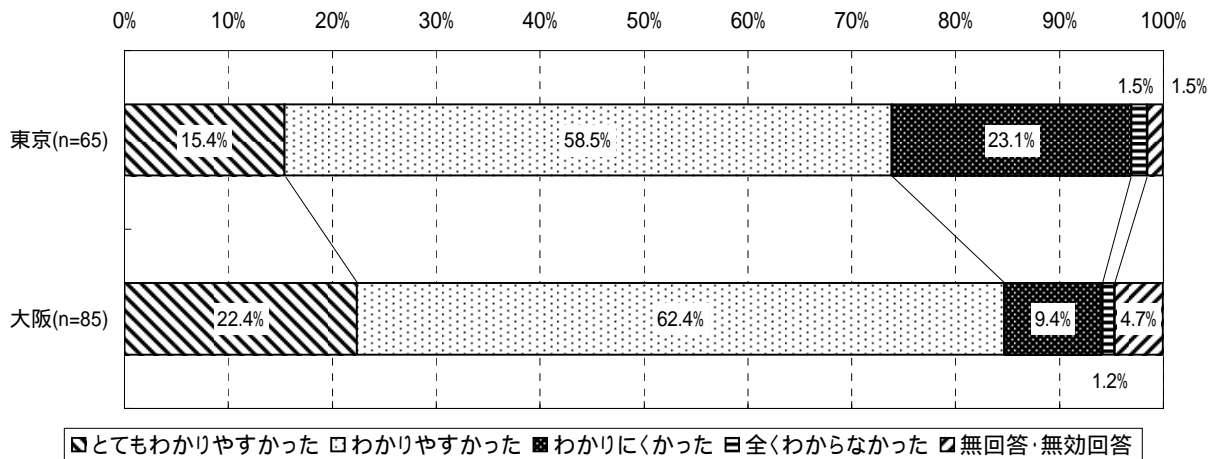
東京会場については、90%近くの回答者が「わかりやすかった」と回答。一方、大阪会場においては、約半数が「わかりやすかった」と回答しているのに対して、「わかりにくかった・わからなかった」との回答が30%を超えた。

【配布資料】大豆イソフラボンの安全性評価に関する考え方のポイント資料はわかりやすかったですか



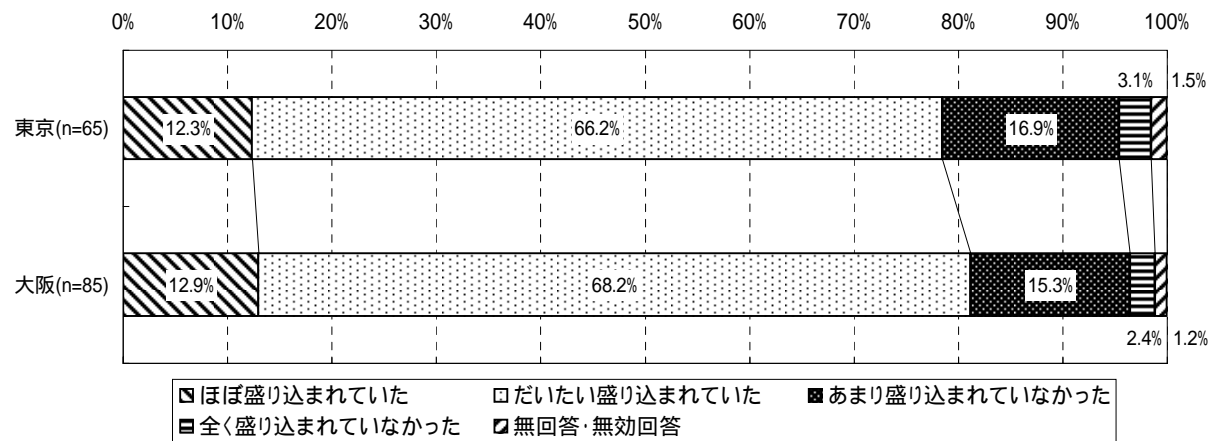
両会場とも、おおむね80%が「わかりやすかった」と回答。

【演者からの説明】演者からの説明はわかりやすかったですか



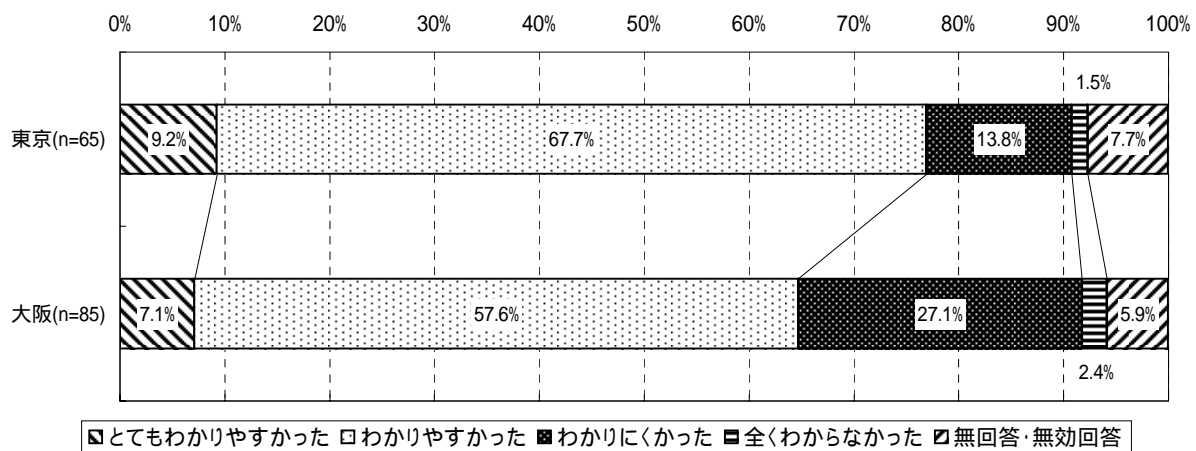
東京会場は約 74%、大阪会場は約 85%が「わかりやすかった」と回答。

【演者からの説明】演者からの説明には、自分が知りたい内容が盛り込まれていましたか



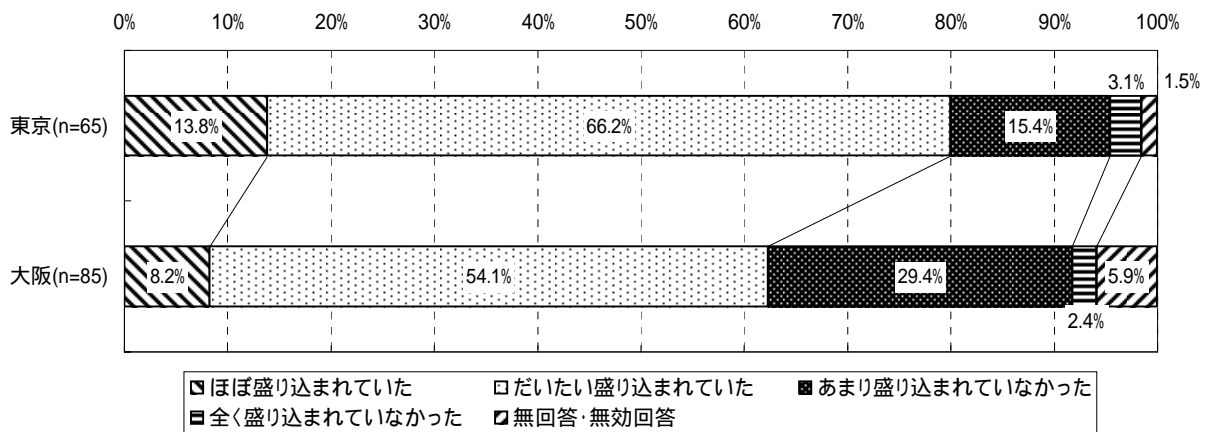
両会場とも、80%前後が「自分が知りたい内容が盛り込まれていた」と回答。

【パネルディスカッション】パネルディスカッションはわかりやすかったですか



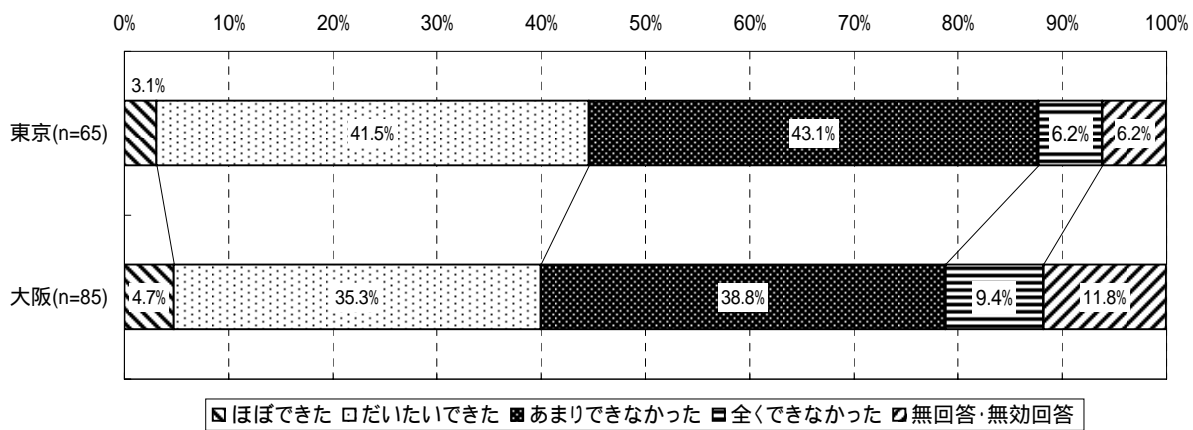
東京会場については約 77%、大阪会場については約 65%が「わかりやすかった」と回答。また、大阪会場については約 30%の回答者が「わかりにくかった・わからなかった」と回答。

【パネルディスカッション】パネルディスカッションには、自分が知りたい内容が盛り込まれていましたか



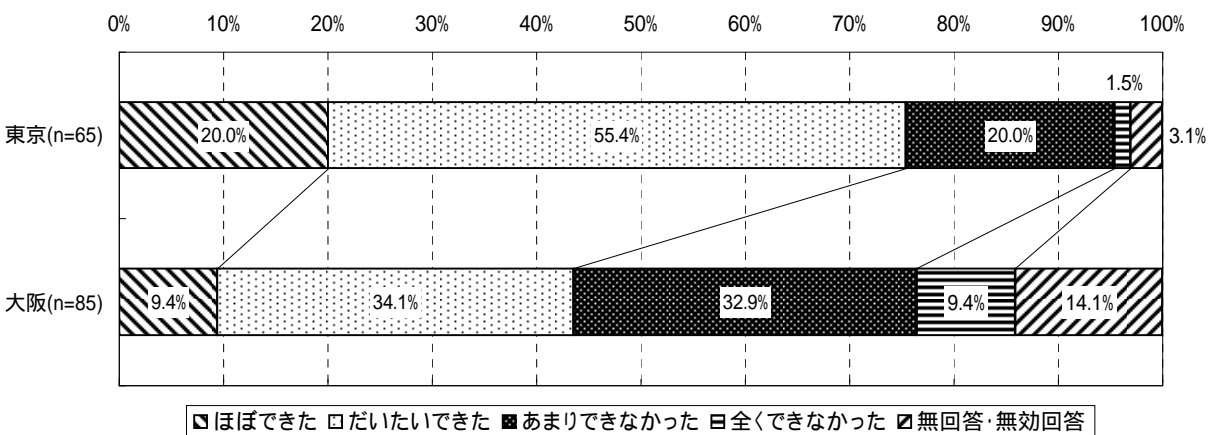
東京会場については80%、大阪会場については約62%が「自分が知りたい内容が盛り込まれていた」と回答。また、大阪会場については約30%の回答者が「自分が知りたい内容が盛り込まれていなかった」と回答。

【会場との意見交換】自分の知りたい内容や伝えたい内容について、意見交換ができましたか



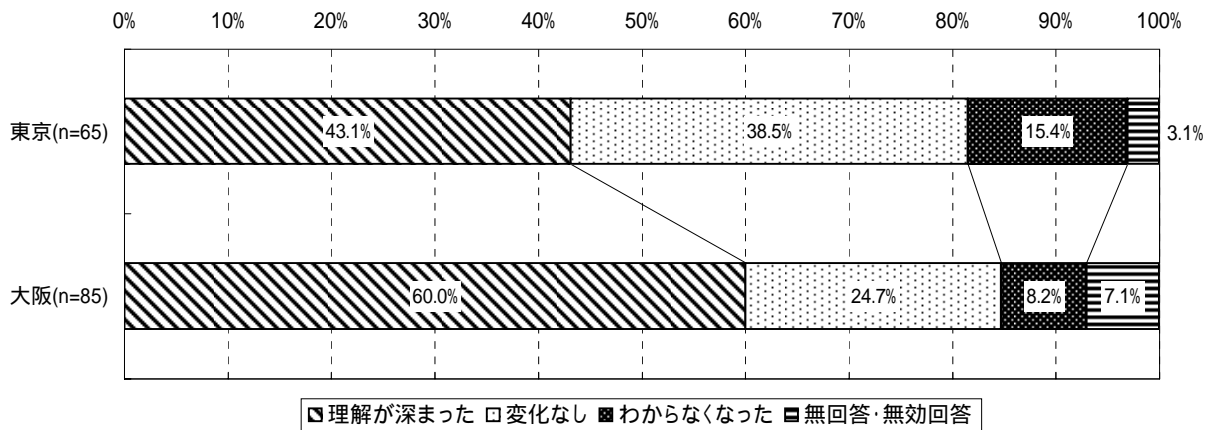
両会場とも、「意見交換ができた」と回答した方より、「できなかった」と回答した方が、若干多かった。

【会場との意見交換】コーディネーター（会場との意見交換のとりまとめ役）は、会場からの質問や意見を十分に聞いていましたか



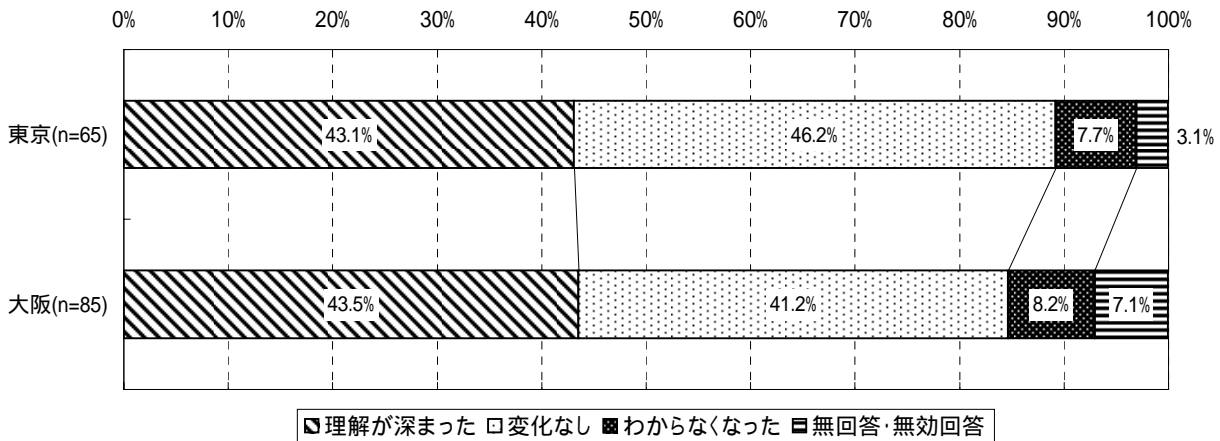
東京会場については約75%、大阪会場については約44%が「できた」と回答。また、大阪会場については約42%が「できなかった」と回答。

【全体を通じて】大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価(案)に関する理解は深まりましたか



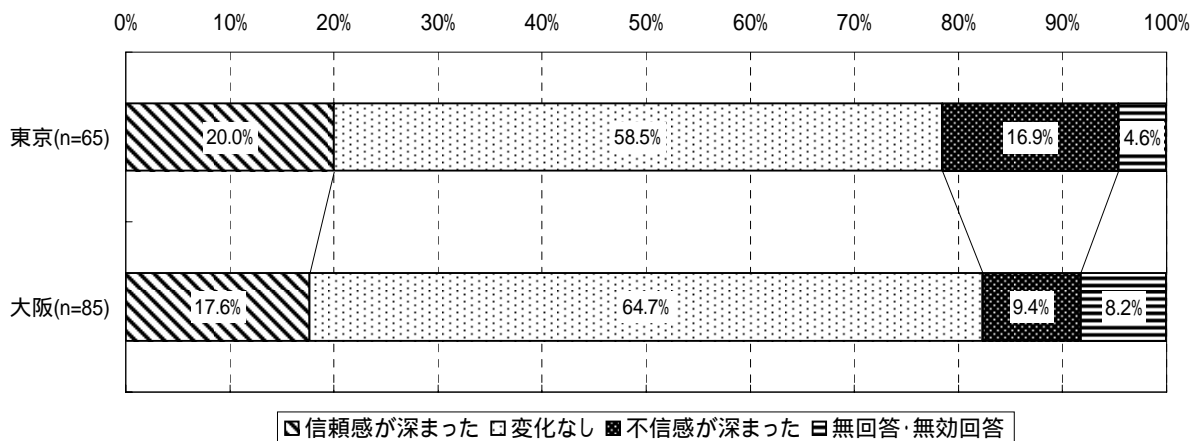
東京会場については約43%、大阪会場については60%が「理解が深まった」と回答。

【全体を通じて】消費者、事業者、生産者、研究者、行政などの関係者の立場や意見に関する理解は深まりましたか



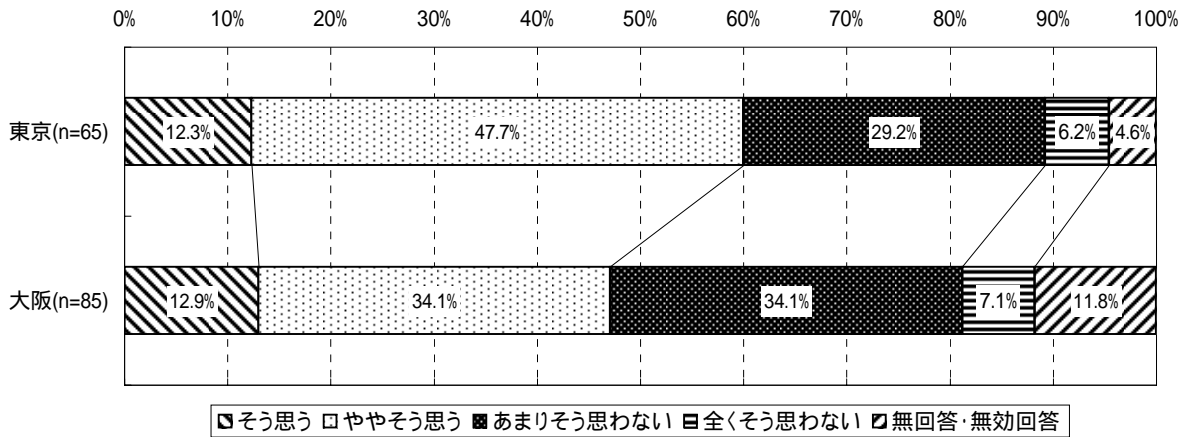
両会場とも、「理解が深まった」及び「変化なし」という回答が同じくらいの割合であった。

【全体を通じて】消費者、事業者、生産者、研究者、行政などの関係者への信頼感は深まりましたか



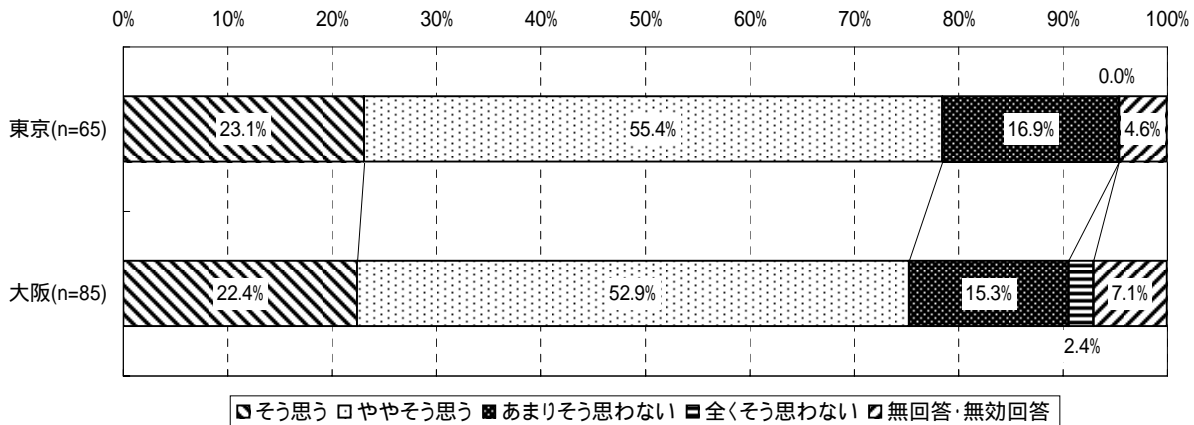
両会場とも、「変化なし」との回答が60%前後であった。

【全体を通じて】本日の意見交換会は、参加者が意見を述べる、もしくは、意見を交換する場として十分機能していたと思いますか



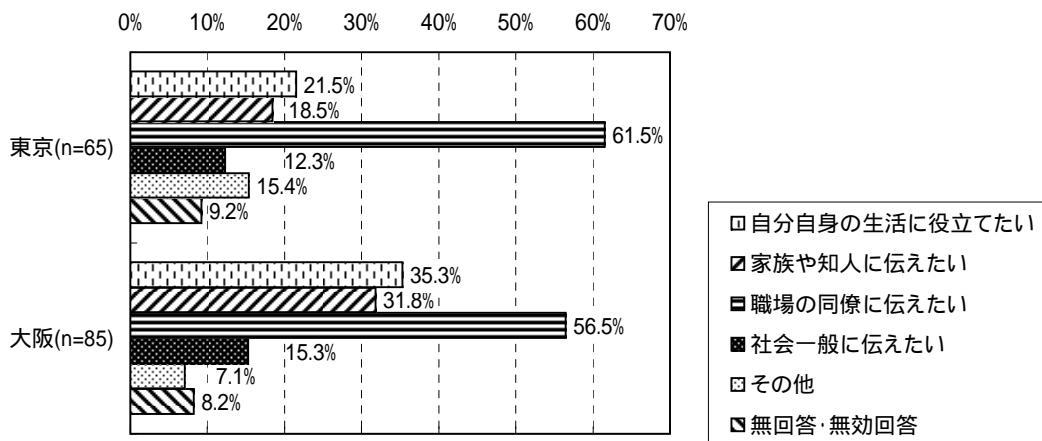
東京会場については60%、大阪会場については47%が「そう思う」と回答。

【全体を通じて】本日の意見交換会は、食品安全行政の透明性を高める(行政の考えやその取組の内容を明らかにする)場として有用だったと思いますか



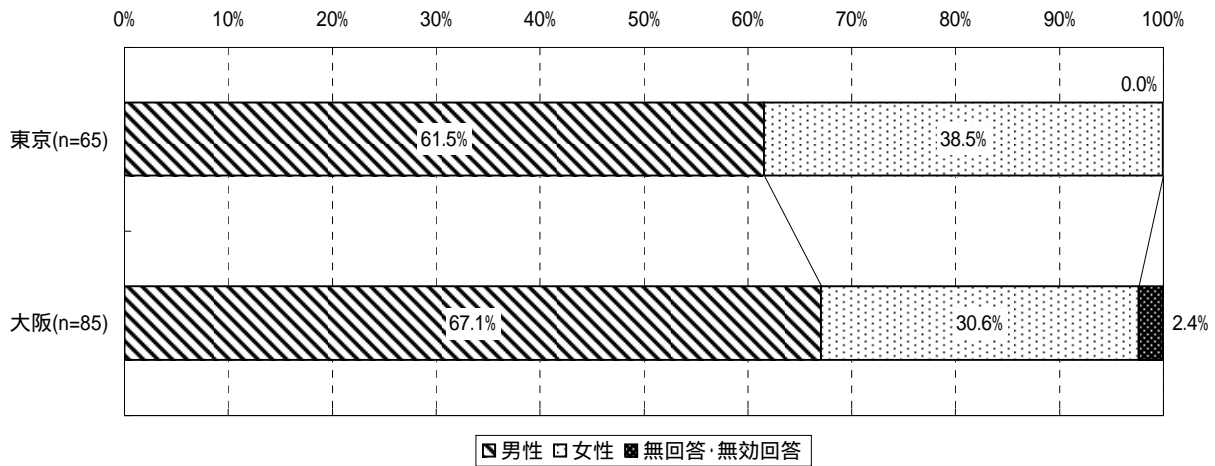
両会場とも、「そう思う」と回答した人は70%を超えた。一方、「そう思わない」との回答は20%弱にとどまった。

【全体を通じて】本日得られた情報をどのような場面で活かしていきたいと思いますか



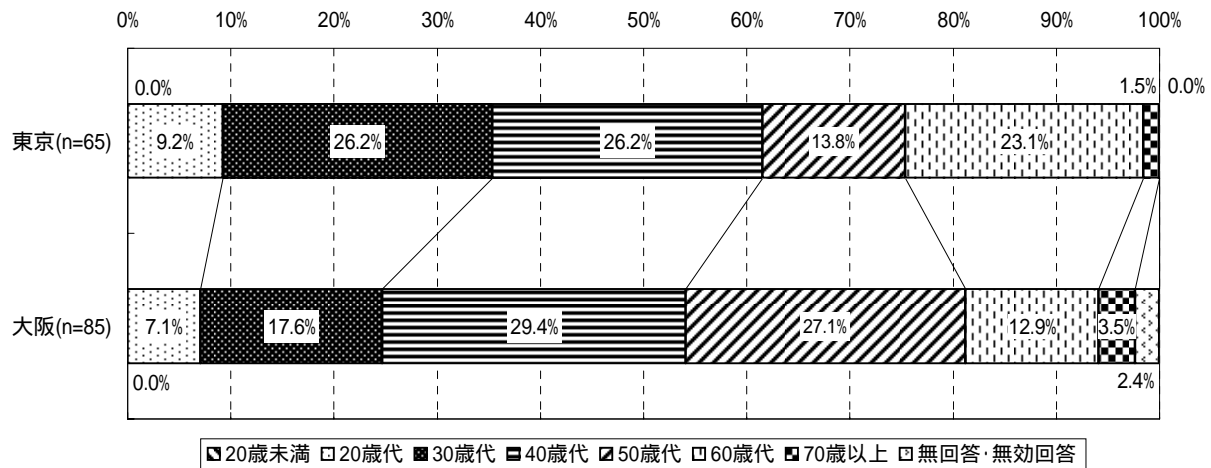
両会場とも、「職場の同僚に伝えたい」という回答者が半数を超え、多かった。

性別



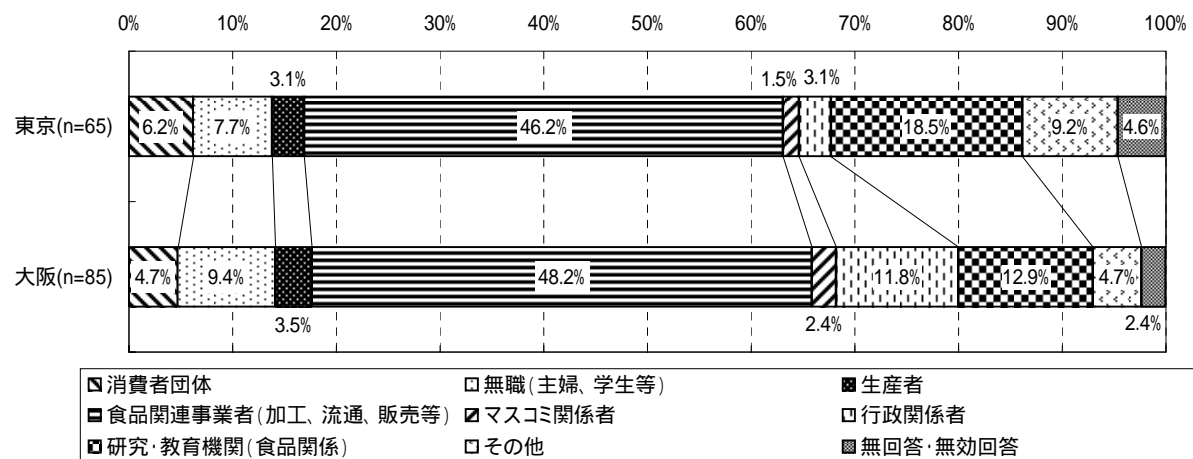
両会場とも、回答者の半数以上が男性であった。

年齢



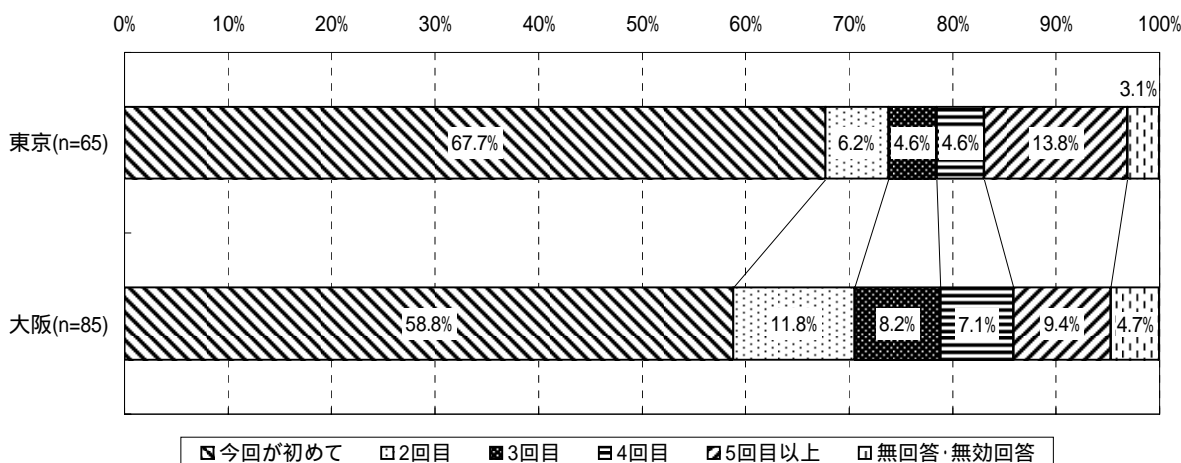
東京会場については「30歳代」、「40歳代」が多く、大阪会場については「40歳代」、「50歳代」が多かった。

職業



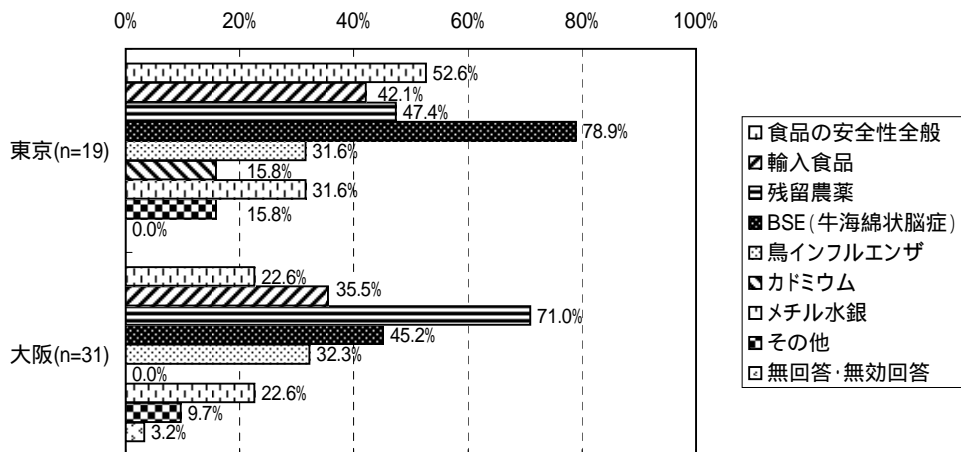
両会場とも、「食品関連事業者」の参加が多かった。次いで多かったのは両会場とも「研究・教育機関」であったが、大阪会場については「行政関係者」の参加も多かった。

食品安全に関する意見交換会への参加回数



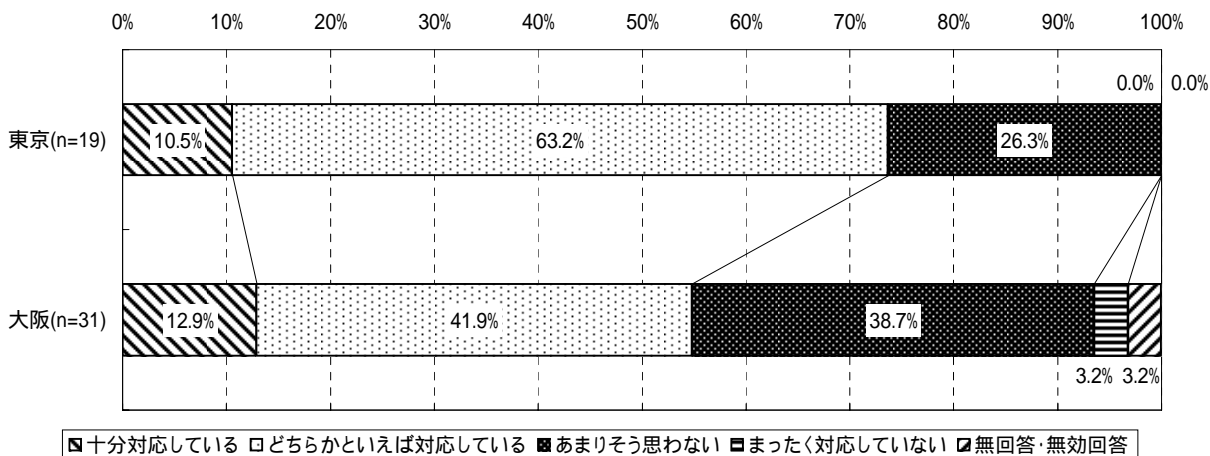
東京会場については67.7%、大阪会場については58.8%が、「今回初めて参加」と回答。また、東京会場は約30%、大阪会場は約37%が2回目以上の参加であった。

-1以前、参加された意見交換会のテーマ



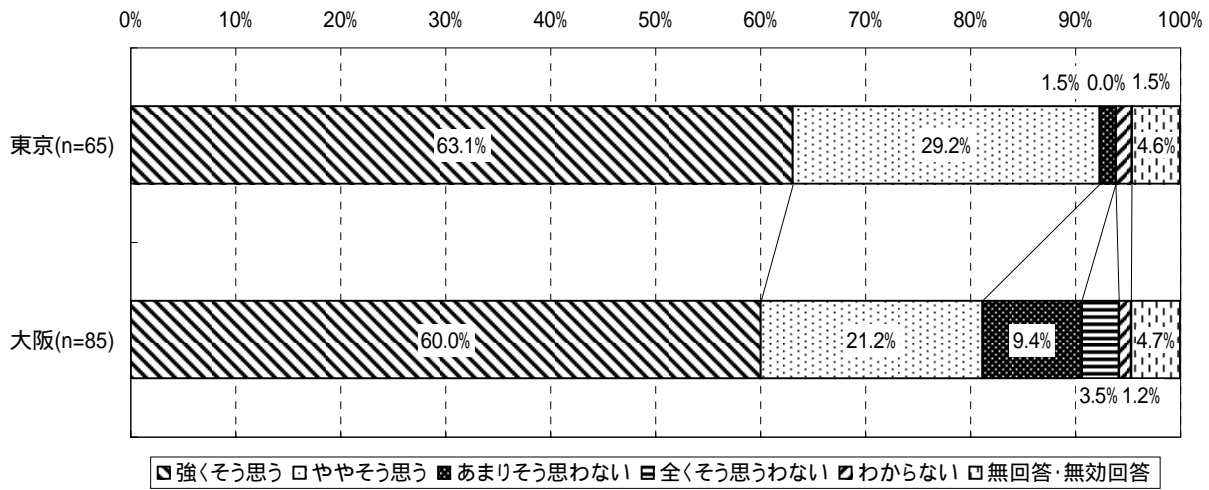
東京会場、大阪会場で回答が分かれた。東京会場においては、「BSE (牛海綿状脳症)」「食品の安全性全般」「残留農薬」の順が多かったが、大阪会場においては「残留農薬」「BSE (牛海綿状脳症)」「輸入食品」の順であった。

-2行政の対応について(意見の整理や政策への反映など)



東京会場については70%以上、大阪会場については約55%が、「対応している」と回答。また、大阪会場については約42%が「対応していない」と回答。

「100%安全な食品はない」について、あなたはどのように思われますか



東京会場については90%以上、大阪会場については80%以上が「そう思う」と回答。

**食品に関するリスクコミュニケーション（大阪）
大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価（案）に関する意見交換会
アンケート集計結果**

開催日：2006年2月28日（火）

参加者数：126名 回答数：85名 回答率：67%

問1. 本日の意見交換会についてお聞きします。

【参加手続き】参加手続きの方法はよかったですか

回答内容	件数	割合
1. とてもよかった	10	11.8%
2. よかった	68	80.0%
3. あまりよくなかった	4	4.7%
4. 全くよくなかった	1	1.2%
無回答・無効回答	2	2.4%
	85	100.0%

【意見交換会の進め方】本日の意見交換会の進め方に関する司会者からの説明はわかりやすかったですか（開催趣旨、時間配分、意見交換の方法など）

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	5	5.9%
2. わかりやすかった	41	48.2%
3. わかりにくかった	23	27.1%
4. 全くわからなかった	5	5.9%
無回答・無効回答	11	12.9%
	85	100.0%

【配布資料】大豆イソフラボンの安全性評価に関する考え方のポイント資料はわかりやすかったですか

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	10	11.8%
2. わかりやすかった	59	69.4%
3. わかりにくかった	13	15.3%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答・無効回答	3	3.5%
	85	100.0%

【演者からの説明】演者からの説明はわかりやすかったですか

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	19	22.4%
2. わかりやすかった	53	62.4%
3. わかりにくかった	8	9.4%
4. 全くわからなかった	1	1.2%
無回答・無効回答	4	4.7%
	85	100.0%

【演者からの説明】演者からの説明には、自分が知りたい内容が盛り込まれていましたか

回答内容	件数	割合
1. ほぼ盛り込まれていた	11	12.9%
2. だいたい盛り込まれていた	58	68.2%
3. あまり盛り込まれていなかった	13	15.3%
4. 全く盛り込まれていなかった	2	2.4%
無回答・無効回答	1	1.2%
	85	100.0%

【パネルディスカッション】パネルディスカッションはわかりやすかったですか

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	6	7.1%
2.わかりやすかった	49	57.6%
3.わかりにくかった	23	27.1%
4.全くわからなかった	2	2.4%
無回答・無効回答	5	5.9%
	85	100.0%

【パネルディスカッション】パネルディスカッションには、自分が知りたい内容が盛り込まれていましたか

回答内容	件数	割合
1.ほぼ盛り込まれていた	7	8.2%
2.だいたい盛り込まれていた	46	54.1%
3.あまり盛り込まれていなかった	25	29.4%
4.全く盛り込まれていなかった	2	2.4%
無回答・無効回答	5	5.9%
	85	100.0%

【会場との意見交換】自分の知りたい内容や伝えたい内容について、意見交換ができましたか

回答内容	件数	割合
1.ほぼできた	4	4.7%
2.だいたいできた	30	35.3%
3.あまりできなかった	33	38.8%
4.全くできなかった	8	9.4%
無回答・無効回答	10	11.8%
	85	100.0%

【会場との意見交換】コーディネーター（会場との意見交換のとりまとめ役）は、会場からの質問や意見を十分に聞いていましたか

回答内容	件数	割合
1.ほぼできた	8	9.4%
2.だいたいできた	29	34.1%
3.あまりできなかった	28	32.9%
4.全くできなかった	8	9.4%
無回答・無効回答	12	14.1%
	85	100.0%

【全体を通じて】大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価（案）に関する理解は深まりましたか

回答内容	件数	割合
1.理解が深まった	51	60.0%
2.変化なし	21	24.7%
3.わからなくなった	7	8.2%
無回答・無効回答	6	7.1%
	85	100.0%

【全体を通じて】消費者、事業者、生産者、研究者、行政などの関係者の立場や意見に関する理解は深まりましたか

回答内容	件数	割合
1.理解が深まった	37	43.5%
2.変化なし	35	41.2%
3.わからなくなった	7	8.2%
無回答・無効回答	6	7.1%
	85	100.0%

【全体を通じて】消費者、事業者、生産者、研究者、行政などの関係者への信頼感は深まりましたか

回答内容	件数	割合
1.信頼感が深まった	15	17.6%
2.変化なし	55	64.7%
3.不信感が深まった	8	9.4%
無回答・無効回答	7	8.2%
	85	100.0%

【全体を通じて】本日の意見交換会は、参加者が意見を述べる、もしくは、意見を交換する場として十分機能していたと思いますか

回答内容	件数	割合
1.そう思う	11	12.9%
2.ややそう思う	29	34.1%
3.あまりそう思わない	29	34.1%
4.全くそう思わない	6	7.1%
無回答・無効回答	10	11.8%
	85	100.0%

【全体を通じて】本日の意見交換会は、食品安全行政の透明性を高める（行政の考えやその取組の内容を明らかにする）場として有用だったと思いますか

回答内容	件数	割合
1.そう思う	19	22.4%
2.ややそう思う	45	52.9%
3.あまりそう思わない	13	15.3%
4.全くそう思わない	2	2.4%
無回答・無効回答	6	7.1%
	85	100.0%

【全体を通じて】本日得られた情報をどのような場面で活かしていきたいと思いますか（複数回答）

回答内容	件数	割合
1.自分自身の生活に役立てたい	30	35.3%
2.家族や知人に伝えたい	27	31.8%
3.職場の同僚に伝えたい	48	56.5%
4.社会一般に伝えたい	13	15.3%
5.その他	6	7.1%
無回答・無効回答	7	8.2%
	131	-

問2. あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします

性別

回答内容	件数	割合
1.男性	57	67.1%
2.女性	26	30.6%
無回答・無効回答	2	2.4%
	85	100.0%

年齢

回答内容	件数	割合
1.20歳未満	0	0.0%
2.20歳代	6	7.1%
3.30歳代	15	17.6%
4.40歳代	25	29.4%
5.50歳代	23	27.1%
6.60歳代	11	12.9%
7.70歳以上	3	3.5%
無回答・無効回答	2	2.4%
	85	100.0%

職業

回答内容	件数	割合
1.消費者団体	4	4.7%
2.無職（主婦、学生等）	8	9.4%
3.生産者	3	3.5%
4.食品関連事業者（加工、流通、販売等）	41	48.2%
5.マスコミ関係者	2	2.4%
6.行政関係者	10	11.8%
7.研究・教育機関（食品関係）	11	12.9%
8.その他	4	4.7%
無回答・無効回答	2	2.4%
	85	100.0%

食品安全に関する意見交換会への参加回数

回答内容	件数	割合
1.今回が初めて	50	58.8%
2.2回目	10	11.8%
3.3回目	7	8.2%
4.4回目	6	7.1%
5.5回目以上	8	9.4%
無回答・無効回答	4	4.7%
	85	100.0%

→ 2.3.4.5.を選択した方
-1、 -2へ。

-1以前、参加された意見交換会のテーマ（ で2.3.4.5.を選択した回答者n=31：複数回答）

回答内容	件数	割合
1.食品の安全性全般	7	22.6%
2.輸入食品	11	35.5%
3.残留農薬	22	71.0%
4.BSE（牛海綿状脳症）	14	45.2%
5.鳥インフルエンザ	10	32.3%
6.カドミウム	0	0.0%
7.メチル水銀	7	22.6%
8.その他	3	9.7%
無回答・無効回答	1	3.2%
	75	-

-2行政の対応について（意見の整理や政策への反映など）（ で2.3.4.5.を選択した回答者n=31）

回答内容	件数	割合
1.十分対応している	4	12.9%
2.どちらかといえば対応している	13	41.9%
3.あまりそう思わない	12	38.7%
4.まったく対応していない	1	3.2%
無回答・無効回答	1	3.2%
	31	100.0%

「100%安全な食品はない」について、あなたはどのように思われますか

回答内容	件数	割合
1.強くそう思う	51	60.0%
2.ややそう思う	18	21.2%
3.あまりそう思わない	8	9.4%
4.全くそう思うわない	3	3.5%
5.わからない	1	1.2%
無回答・無効回答	4	4.7%
	85	100.0%

ご意見・ご感想（原則、個人の特定できるものに関わるものは としています。）

1	畑の中の肉は大事です。サプリメントは次から次へと出てくるのでブレーキはかけるべきですが、豆は昔からの歴史においても蛋白質として大事な食品です。農薬のかからない豆は食べていきたいです。何でもそうですが、ぎょうしゅくした薬品をずっと食す沢山食べるのは良くない事は常識です。
2	コーディネーターの進行が上手くない。知りたい論点を整理して欲しい。
3	問1 . 4聞き取りにくい 上限値に関しては70~75ng/日に決まるのは早急ではないか。大豆食品に対しての不安材量には結びついているがサプリにつながっていない消費者が多い。何故、ああいっただ報道につながったかが問題。
4	豆腐・納豆・豆乳の安全性について厚生労働省としてホームページだけではなくて新聞・テレビ・CM等で国民に伝えて欲しい。《問1》大豆商品イメージが悪くならない様にしてほしい。
5	海外のイソフラボンとは関係ない根拠などで安全性について有害と主張するのはおかしい。大豆摂取量が30年間減少していないとの主張も現実を反映していない。目安量を定める根拠が不明なのになぜ急いで決める必要があるのか？もっと議論必要では？
6	食品の安全に関して1点を取らえて決定議論とするのはむづかしいのではないか。 氏の発言と同じ様です。
7	《問1》やや深まった
8	対米等政治的な見地より、第一に安全性を考えていただきたい。
9	もう少し資料が欲しい！
10	サプリメント形態のものを特定保健用食品に認めるにあたってはアレルギーなどなど理由はあるとは思いますがサプリメント利用について特に日本人は未だ成熟していないと思う。消費者教育の必要性を強く感じる。食品に関わる業者の方々には倫理感といったもの（人の命につながっているのだということをしきする）をもっと考えてほしいと思います。一栄養学者として何かできることはないか考えます。
11	《問1》当初声が小さかった為。
12	司会者の話、ききとれない。もう少し詳細な資料がほしかった。科学的調査、試験（日本での試験（日本人））が浅い様に感じた。資料では大雑把で甘いように思える。また、男性には影響あまりなさそうにも思えた。加工食品が多いが、それぞれ成分をきちんと表示しないと摂取量が自分で管理できない。売ってる食品全てに記入してほしい。
13	業界（事業者・団体）の反発意見が系統的に出されたように思います。拍手などで議論を妨害する場面もあり、司会の公平感が失われた。業界は豆腐製造業者が組織的に入場し、圧力をかけるが如き行動がみられた。
14	会場の意見を聞く時間が少なかったように思う。
15	会場との意見交換において、評価案に対して参加者からの反証が述べられて意見を交換することは良いことだと思うが、その反証に対して場内から拍手が起こるといふのはそのこと自体が日本でのリスコミのレベル、特に参加者のレベルの低さを痛感する。
16	運営が一方的だった。コーディネーター、司会者の力不足を感じた。声が聞こえづらい。パネルディスカッション時に照明が暗いなどの声があがったがいっさい無視であった。パネラーのマイクはよく聞こえたが、司会者、コーディネーターはマイクの声が聞きとりにくい。
17	数値設定は慎重に（影響が大きい）。トクホの機能性重要と思うが今回のイソフラボンに機能性は？
18	パネルディスカッションの各パネリストの話はよかったですと思いました。各視点からの意見を聞けて共感するものがありました。先生の講演中、後ろの方の私語が気になり先生の話が聞きとりにくかったです。
19	コーディネーターの発声が悪く聴きづらかった。
20	一日摂取目安量をどのように決めたいかを知りたかったので、とてもわかりやすかった。特に先生の説明はよくわかった。良い面、悪い面の表示をするようにという趣旨はよくわかった。
21	さん、もっと大きな声でゆっくり言ってほしい。答えはみんなに分る話し方が一番です。他の先生にも言えることですが。
22	1日に75mgですが食品として食べる場合は、考えなくてもよいのではと思います。錠剤になるととりすぎる心配があると思う。
23	いろいろな立場の方との集う場はそれぞれのメリット・デメリットがうきぼりにされて大変面白いし、理解が深まると思われました。《問2 -1》BSEの話題になってしまったような・・・
24	一般にも訳りやすい資料を情報として出しながら食品とわけて行うべきで特定すべきでないと思う。ダイズイソフラボンもとりすぎしないよう付けかわえる必要もあると思います。自分で管理するテーマで基準は必要ない。
25	開会あいさつはもっと簡単にすべき。詳しく話をするならば講演とすべし。ディスカッションでは、偏った意見しか出ていないので、全体のバランスは悪い。食の安全・安心に対して不安が広がるリスクコミュニケーションでは開催する意味がない。京大の先生の話は（2分間）面白かった。《問2 -2》特に内閣府
26	ディスカッションのメンバー構成にかたよがりがありましたね。（農水、厚労の方は、会場より状況により発言し、パネラーは少なくする（一定）ことや、マスコミの方をパネラーに入れて行ってはどうですか？）
27	評価の初期段階から、国民に広く意見を募るべきではないか？この段階まで来ると、変更は難しい。
28	トクホのみの摂取制限のみにしてほしい。
29	意見交換会の時間が短い。コーディネーターの方の話が聞きとりにくい。

30	《問2》始めて知った。
31	健康への関心が高まり、健康食品がたくさん流通している。いわゆる健康食品とよばれているものと、保健キノウ食品の混同がおこらないよう、そして、リスク分析が望まれる。新しいものが次々とでてきているので、よろしく願います。《問1》少し聞きとりにくかったボンボンと話されていた。
32	イソフラボンの害という報告がありますか？（国内、海外）もしない場合はそのような規定の必要性もありません。96)番の参考文献ですが、同グループその後1500mg/日投与量で不妊治療に応用したという発表もありました。副作用と認識した場合は、150mg/日の10倍量を投与するでしょうか？参考文献の基準は不明である。成分によって副作用は異なる。129)番の参考文献について、同グループはDaidzienとEqoullはそうではない。130)番の参考文献について、別グループはDaidzienとタモキシフェンと相乗効果である。AHAのコメントは十分である。1998年8月～2005年4月の間に22参考文献の倍以上発表されており、参考文献の基準は不明である。《問1》不十分
33	《問2》その通り。本来「食育」とは、これを行政が行うべきではないか。ほうれん草のゆでたものに、どれだけVITAが含まれているというあいまいな情報はもういいかげんやめてらどうか。
34	諸外国の事例等が出されたが、日本人との体質に差があると思う。上限より下限についての健康評価が必要ではないか。先生、氏の意見を尊重したい。
35	司会の方、非常に早口で、とても集中しないとききとれませんでした。コーディネーターの方、2回も声がききとりにくいとの意見があった。声がきちんとマイクに入るように事前に位置など確認してはどうか。これまで数回参加してきたが、今回のようなことはありませんでした。
36	イソフラボンの過剰摂取による健康被害の事象についての説明が非常にあやふやな為、数値の判断基準が全くわからないので、納得できないのではないのでしょうか？この基準が厳しいかゆるいかは、日本としての試験によったものでちゃんとトライアルをやってもらいたいです。75mg/日という表現ではなく、22.5mg/日とか年間 x kgとかいう表現にできないのでしょうか？
37	ある程度の知識を持って参加したつもりですが、講演内容やパネリストの話を知っているうちに、不安が大きくなり、わからなくなりました。消費者に理解しやすく、情報をPRしていただきたいと思います。
38	マスコミの影響が大きいと思うので、報道発表時にはよりいねいに、判りやすく、一般消費者を想定して行ってください。
39	パネリストの方々の壇上の照明が暗く陰気な感があり、次回の反省にさせていただければ可かと思えます。コーディネーター（前半）の音が聞きとりにくく（マイク使用の仕方悪）残念。
40	司会の声が小さく、先生方の場所（前）が暗い。7人でのディスカッションする意味が分かりません。
41	安全性を評価する際に、外国文献ばかりを参考にするのは如何かと思う。日本の食品安全委員会なので、日本での（日本人での）結果から評価すべきである。《問1》わかりやすかったが理解しがたい部分もある。《問1》わかりやすかったが理解しがたい部分もある。《問1》国民の意見が反映させれば。
42	本安全委員会の案は昨年の最初の案以来、public opinionを求めながらも本質はかわってない。日本人の食生活の深い大豆食の栄養効果、安全性について、外国の不十分な専門家の批判に耐えない文献のみにより主張の正当性を裏付けようとしている態度がみられ、日本の安全委員会のあり方に根本的な改革が必要である。日本人の安全基準は日本人のデータを集めて出すべきである！

食品に関するリスクコミュニケーション（東京）
大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価（案）に関する意見交換会
アンケート集計結果

開催日：2006年3月2日（木）

参加者数：147名 回答数：65名 回答率：44%

問1. 本日の意見交換会についてお聞きします。

【参加手続き】参加手続きの方法はよかったですか

回答内容	件数	割合
1. とてもよかった	14	21.5%
2. よかった	46	70.8%
3. あまりよくなかった	3	4.6%
4. 全くよくなかった	1	1.5%
無回答・無効回答	1	1.5%
	65	100.0%

【意見交換会の進め方】本日の意見交換会の進め方に関する司会者からの説明はわかりやすかったですか（開催趣旨、時間配分、意見交換の方法など）

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	9	13.8%
2. わかりやすかった	49	75.4%
3. わかりにくかった	2	3.1%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答・無効回答	5	7.7%
	65	100.0%

【配布資料】大豆イソフラボンの安全性評価に関する考え方のポイント資料はわかりやすかったですか

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	11	16.9%
2. わかりやすかった	41	63.1%
3. わかりにくかった	12	18.5%
4. 全くわからなかった	0	0.0%
無回答・無効回答	1	1.5%
	65	100.0%

【演者からの説明】演者からの説明はわかりやすかったですか

回答内容	件数	割合
1. とてもわかりやすかった	10	15.4%
2. わかりやすかった	38	58.5%
3. わかりにくかった	15	23.1%
4. 全くわからなかった	1	1.5%
無回答・無効回答	1	1.5%
	65	100.0%

【演者からの説明】演者からの説明には、自分が知りたい内容が盛り込まれていましたか

回答内容	件数	割合
1. ほぼ盛り込まれていた	8	12.3%
2. だいたい盛り込まれていた	43	66.2%
3. あまり盛り込まれていなかった	11	16.9%
4. 全く盛り込まれていなかった	2	3.1%
無回答・無効回答	1	1.5%
	65	100.0%

【パネルディスカッション】パネルディスカッションはわかりやすかったですか

回答内容	件数	割合
1.とてもわかりやすかった	6	9.2%
2.わかりやすかった	44	67.7%
3.わかりにくかった	9	13.8%
4.全くわからなかった	1	1.5%
無回答・無効回答	5	7.7%
	65	100.0%

【パネルディスカッション】パネルディスカッションには、自分が知りたい内容が盛り込まれていましたか

回答内容	件数	割合
1.ほぼ盛り込まれていた	9	13.8%
2.だいたい盛り込まれていた	43	66.2%
3.あまり盛り込まれていなかった	10	15.4%
4.全く盛り込まれていなかった	2	3.1%
無回答・無効回答	1	1.5%
	65	100.0%

【会場との意見交換】自分の知りたい内容や伝えたい内容について、意見交換ができましたか

回答内容	件数	割合
1.ほぼできた	2	3.1%
2.だいたいできた	27	41.5%
3.あまりできなかった	28	43.1%
4.全くできなかった	4	6.2%
無回答・無効回答	4	6.2%
	65	100.0%

【会場との意見交換】コーディネーター（会場との意見交換のとりまとめ役）は、会場からの質問や意見を十分に聞けていましたか

回答内容	件数	割合
1.ほぼできた	13	20.0%
2.だいたいできた	36	55.4%
3.あまりできなかった	13	20.0%
4.全くできなかった	1	1.5%
無回答・無効回答	2	3.1%
	65	100.0%

【全体を通じて】大豆イソフラボンを含む特定保健用食品の食品健康影響評価（案）に関する理解は深まりましたか

回答内容	件数	割合
1.理解が深まった	28	43.1%
2.変化なし	25	38.5%
3.わからなくなった	10	15.4%
無回答・無効回答	2	3.1%
	65	100.0%

【全体を通じて】消費者、事業者、生産者、研究者、行政などの関係者の立場や意見に関する理解は深まりましたか

回答内容	件数	割合
1.理解が深まった	28	43.1%
2.変化なし	30	46.2%
3.わからなくなった	5	7.7%
無回答・無効回答	2	3.1%
	65	100.0%

【全体を通じて】消費者、事業者、生産者、研究者、行政などの関係者への信頼感は深まりましたか

回答内容	件数	割合
1.信頼感が深まった	13	20.0%
2.変化なし	38	58.5%
3.不信感が深まった	11	16.9%
無回答・無効回答	3	4.6%
	65	100.0%

【全体を通じて】本日の意見交換会は、参加者が意見を述べる、もしくは、意見を交換する場として十分機能していたと思いますか

回答内容	件数	割合
1.そう思う	8	12.3%
2.ややそう思う	31	47.7%
3.あまりそう思わない	19	29.2%
4.全くそう思わない	4	6.2%
無回答・無効回答	3	4.6%
	65	100.0%

【全体を通じて】本日の意見交換会は、食品安全行政の透明性を高める（行政の考えやその取組の内容を明らかにする）場として有用だったと思いますか

回答内容	件数	割合
1.そう思う	15	23.1%
2.ややそう思う	36	55.4%
3.あまりそう思わない	11	16.9%
4.全くそう思わない	0	0.0%
無回答・無効回答	3	4.6%
	65	100.0%

【全体を通じて】本日得られた情報をどのような場面で活かしていきたいと思えますか
(複数回答)

回答内容	件数	割合
1. 自分自身の生活に役立てたい	14	21.5%
2. 家族や知人に伝えたい	12	18.5%
3. 職場の同僚に伝えたい	40	61.5%
4. 社会一般に伝えたい	8	12.3%
5. その他	10	15.4%
無回答・無効回答	6	9.2%
	90	-

問2. あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします

性別

回答内容	件数	割合
1. 男性	40	61.5%
2. 女性	25	38.5%
無回答・無効回答	0	0.0%
	65	100.0%

年齢

回答内容	件数	割合
1. 20歳未満	0	0.0%
2. 20歳代	6	9.2%
3. 30歳代	17	26.2%
4. 40歳代	17	26.2%
5. 50歳代	9	13.8%
6. 60歳代	15	23.1%
7. 70歳以上	1	1.5%
無回答・無効回答	0	0.0%
	65	100.0%

職業

回答内容	件数	割合
1. 消費者団体	4	6.2%
2. 無職（主婦、学生等）	5	7.7%
3. 生産者	2	3.1%
4. 食品関連事業者（加工、流通、販売等）	30	46.2%
5. マスコミ関係者	1	1.5%
6. 行政関係者	2	3.1%
7. 研究・教育機関（食品関係）	12	18.5%
8. その他	6	9.2%
無回答・無効回答	3	4.6%
	65	100.0%

食品安全に関する意見交換会への参加回数

回答内容	件数	割合
1. 今回が初めて	44	67.7%
2. 2回目	4	6.2%
3. 3回目	3	4.6%
4. 4回目	3	4.6%
5. 5回目以上	9	13.8%
無回答・無効回答	2	3.1%
	65	100.0%

→ 2.3.4.5.を選択した方
-1、 -2へ。

-1以前、参加された意見交換会のテーマ（ で2.3.4.5.を選択した回答者n=19：複数回答）

回答内容	件数	割合
1.食品の安全性全般	10	52.6%
2.輸入食品	8	42.1%
3.残留農薬	9	47.4%
4.BSE（牛海綿状脳症）	15	78.9%
5.鳥インフルエンザ	6	31.6%
6.カドミウム	3	15.8%
7.メチル水銀	6	31.6%
8.その他	3	15.8%
無回答・無効回答	0	0.0%
	60	-

-2行政の対応について（意見の整理や政策への反映など）（ で2.3.4.5.を選択した回答者n=19）

回答内容	件数	割合
1.十分対応している	2	10.5%
2.どちらかといえば対応している	12	63.2%
3.あまりそう思わない	5	26.3%
4.まったく対応していない	0	0.0%
無回答・無効回答	0	0.0%
	19	100.0%

「100%安全な食品はない」について、あなたはどのように思われますか

回答内容	件数	割合
1.強くそう思う	41	63.1%
2.ややそう思う	19	29.2%
3.あまりそう思わない	1	1.5%
4.全くそう思うわない	0	0.0%
5.わからない	1	1.5%
無回答・無効回答	3	4.6%
	65	100.0%